



# 田植え真っ最中



1ヶ月ちょっと前に種もみを蒔いて育ててきた稲の苗。緑のじゅうたんのようです。



無農薬栽培で一番大変な雑草を抑えるために、水に溶ける特別な紙マルチを張りながらの田植えです。



山裾の田んぼは膝下ぐらいの深さの田んぼが多く田植機が沈んでしまうことも良くあります。その都度引っ張り上げるなど、本当に大変です。

おかげさま農場は、「食は命」をテーマにしています。化学合成農薬や化学肥料を使わないことを基本としています。

## ★田植えのラストスパートです

新緑の季節で世の中はお出かけムード一色ですが、農家には関係ありません。今の季節は春から夏へと向かう作物の種まきや植え付けの最適期。同時に田んぼもやっている農家にとっては今が一番の農繁期です。高柳場長も田植えの真っ最中。今、植えているのは3月下旬に苗床に種もみを蒔いて育てた苗です。見た目はふかふかでまるで緑のじゅうたんのようです。田植えが手植えだった時代は、1日で1反(約300坪)の田植えを出来たら一人前、半分しか出来なかったら半人前だったそうです。昔は田んぼがきちんと出来るかどうか一人前かどうかの判断基準だったんですね。

田んぼは水が豊富で温かくあつと言う間に雑草だらけになります。一般的には除草剤を撒くのですが、高柳場長の田んぼは無農薬栽培なので、雑草を抑えるために水に溶ける紙マルチを張りながら田植えが出来る特別な田植機を使っています。40日ぐらいで紙は溶けるそうですが、その頃には雑草が育てないほど稲が育つそうです。この辺りの山裾の田んぼはとても深く、田植機が沈んで動かなくなることもあるほど。その度に人力で引っ張りあげるなど、一筋縄ではいきません。しかし、川沿いの平地の田んぼと比べると、山からのミネラルなどが豊富で「この辺の米作りは大変だけどやっぱり美味しいよな」と言う人が多いのです。手間がかかる山裾の田んぼをやる人は減り毎年頼まれ増え続け、今年は50枚を超えたそうです。そんな田植えもあと少しで終わり。高柳場長、ラストスパートです。

## 【産地情報】

◎春キャベツ、分けネギの出荷が始まっています。